

# 沖地ネット

## “沖地ネットに期待！地域の発展！！”



福建・沖縄交流研究室代表

沖縄県地域づくりネットワーク運営委員

仲宗根信明

地域の活性化は、そこに暮らす住民はもとよりであるが、目的意識を有する組織体が率先して行動を起こすことでより良い成果実現に帰着するのではないのでしょうか。

幸いにも、沖縄県地域づくりネットワーク（以下、「沖地ネット」という。）

は県内各地で活躍する民間団体、市町村、広域市町村圏事務組合及び県と、所謂行政と民間から成る組織体として多面的かつ総合的な視点を有しており、その中であって、各種民間団体や各行政主体による個性的・独創的あるいは地域特有な事業の実施や、合目的なプロジェクト推進等につて相互連携を図るなど関係機関との連携・協力の下、あるいは会員等の活動を支援することでより良い地域創りを目指しています。

何かと、私はこれまでの行政経験（国際交流、企画、産業、海外勤務など）を活かすべく県中南部地域、与那原町などにおける地域づくり活動に参画する機会を得ましたが、そのなかで色々と多くのことを学ぶことができました。なかでも、一事業主体の事業成果は、それ自体単独でも地域の活性化に繋がることから評価が得られるものの、その事業効果を当該事業発生地域のみでなく、隣接地域（他市町村など）との関連・連携（広域あるいは県全体）の中に事業効果をさらに拡大・波及させることの大切さです。

このような事業効果の連鎖性の確保に当たっては、事業主体の自助努力は当然であるが、団体間又は地域間さらには官（行政）民連携、あるいは産学官の協体制づくりも周知のことであるが、その実なかなか課題も多いような気がします。

各の事業やプロジェクトについて、情報交換や紹介、提案、調整などを行い、個別事業主体が抱える課題に対してもその対策や解決に取り組む等、さらなる機能強化を図ることで事業効果の拡大や普及発展に寄与せしめ、結果、より一層の地域づくりへの展開を沖地ネットが担えるよう、会員一同頑張りましょう。

## 干潟でたくさんの生きものと出会いませんか！

沖縄の夏は海だ！

リーフに囲まれたイノーは穏やかで生きものたちがいっぱいです。出かけませんか。沖縄で一番たくさんの生き物いる恩納村の屋嘉田潟原へ。シオマネキもルリマダラシオマネキ・ハクセンシオマネキ・ヒメシオマネキ・ベニシオマネキ・ヤエヤマシオマネキと5種も見られます。その他にソデカラッパ・ケブカガニ・ミナミベニツケガニなど。トゲクリナマコ・クロナマコ・ニセクロナマコ・オオイカリナマコ・シカクナマコ・フタスジナマコ・ジャンメナマコなど。砂浜にリュウキュウナミノコやイソハマグリがいて、海草の上に宝石のように輝く貝のクサイロカノコやキンランカノコがいます。そして、石の下や砂の中、岩の上に600種もの貝が見られるのは屋嘉田潟原だけです。又、歩いてサンゴの生きているのが見られるのもここだけではないのでしょうか。

8月15日 10:00~13:00

恩納村ふれあい体験学習センター

恩納村エコツーリズム研究会

連絡 090-1946-0147(仲西)



## 平成 27 年度 沖地ネット総会報告

去る 5 月 28 日（木）沖縄県県立博物館・美術館 1F 講座室（那覇市おもろまち）におきまして、本年度の総会（議長：上原文一氏カタンニュークラブ代表）を開催（参加団体 20、参加者 38 名、委任 1 団体）致しました。遠くは竹富町や宮古島市からの参加もありました。議題は、平成 26 年度事業報告、決算報告、平成 27 年度事業計画・予算案（修正案道議）、運営委員の変更等であり、すべて承認をいただきました。

総会後の研修会では「地域おこし協力隊」より、北村氏（糸満市）、波平氏（粟国村 OB）、酒井女子、日比氏（うるま市）による活動報告があり、地域おこしの在り方に大いに参考になったようです。研修会終了後は、懇親会を兼ねた交流会を同館内の 3F（Museum Café 茶花）において催しました



総会



会長挨拶



宮古大会について



盛んな質疑



地域づくり協力隊の皆さん